

かがやく

ハーモニーひたちなか

市では11月を
男女共同参画強調月間と定め、
様々な事業を行いました。

今年度のテーマは
「防災」!



手話で「家」を表現する参加者



地震ザブトンにて
震災時の揺れを体験



消費生活+ハーモニー展
(実施した防災アンケートの結果は3Pへ)



パープルリボン展示

パープルリボンには、女性に対するあらゆる暴力をなくしていこうとのメッセージが込められています。

令和6年度 ハーモニーひたちなかフォーラム

IN ワークプラザ勝田多目的ホール

11月17日(日曜日)

「みんなで楽しむ手話×エンターテイメント」

講師：ザ・オイオイズ

(一社) 手話エンターテイメント発信団 oioi

手話パフォーマンスユニットであるザ・オイオイズの皆様をお招きし、活動を通しての経験や自分らしさについてのご講演のほか、手話を使ったパフォーマンスをご披露いただきました。大人も子どももクイズを通して身近な手話に触れるとともに、講師の方々と一緒に会場中みんなで手話体操を楽しんでいました。



手話で「ひたちなか」を表現している様子

男女共同参画表彰式

キャッチフレーズ表彰

応募作品287作品の中から6作品が選ばれ、ひたちなか市長から表彰されました。

最優秀賞

「性別で 制限しない 押しつけない」

(鈴木 綾太さん)

優秀賞

「ぼくのいろわたしのいろ みんなかがやく レインボー」 (目黒 恵人さん)

「互いを大切にしよう 人と人の差のない社会」 (中羽 沙希さん)

佳作

「男女が共に支え合い 笑顔の町 ひたちなか」 (松永 羽叶さん)

「家事分担で 笑顔たくさん 咲かせよう」 (筒口 奏巴さん)

「生き生きと暮らす社会の原点は 人間らしさと自分らしさ」 (永山 展子さん)



事業所表彰

今年度は下記の2社が選ばれ、ひたちなか市長から表彰されました。

●(株)アルコ・イーエクス

[情報通信業・製造業]

独自の育児・介護休業規定を設けており、従業員が働きやすい環境の整備に力を入れている。男性の出産前後の休暇取得及び育児休業は全体のほぼ100%の割合で取得している。

月平均の残業時間を10時間程度に抑え、家庭生活を充実させる環境を整えている。



●(株)フクダ

[婦人服小売業・農業・食品加工・販売]

勤務時間の調整など従業員が働きやすい環境の整備に力を入れている。また、パートから正社員への昇格制度があり、やりがいのある働き方を提案している。

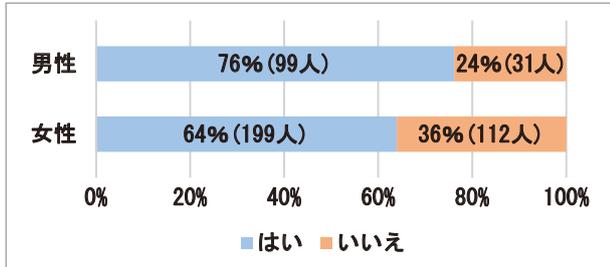
さらに、経験を生かせる再雇用制度により働き続ける環境も整備し、多様な働き方を実現している。



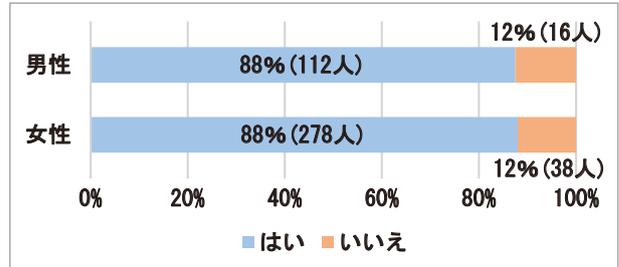
「もう一度防災を考えよう！」

消費生活十ハーモニー展にてアンケート調査を実施しました

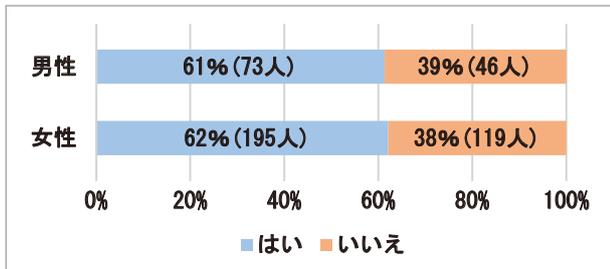
設問① あなたは防災訓練に参加したことがありますか。



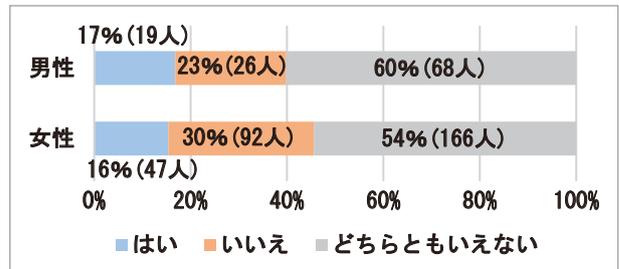
設問② あなたの地域の避難所を知っていますか。



設問③ 家族で防災について話し合っていますか。



設問④ 防災リーダーは男性が向いていると思いますか。



これらの結果から、防災についての意識はある程度高いと推察されますが、まだ十分とは言えない状況です。災害時には適切な行動が求められるため、実際に避難訓練に参加し、災害のリスクや正しい対処法を理解することが重要です。こうした取り組みが、災害リスクを軽減し、命を守ることに繋がると考えられます。



● 避難所の運営で配慮してほしいことは何ですか (特に多かった項目)

配慮の内容	人数	具体的な内容
① トイレの整備関係	130人	トイレの数の確保, 男女の設置場所
② プライバシーへの配慮	97人	個別スペース, 個人情報への配慮
③ 飲み物関係	37人	水の確保

もしものために備えよう!確認しよう!

家具の固定はしたかな?

災害時に家族と連絡はとれるかな?



避難場所はどこかな?

備蓄食料はあるかな?



詳しくはこちら (首相官邸)

男女共同参画講座

「背骨ケアで自律神経と身体を整えよう」を開催しました

講師：作業療法士 山本 一貴さん

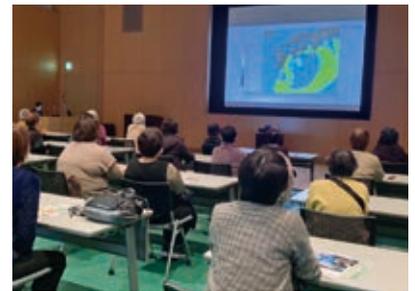
12月4日（水）、講師である山本さんご指導の下、実際に今の身体の状態を確かめ、慢性的な身体の痛みを改善する為の体操を交えながらお話を聞きました。背骨をケアすることで生活習慣を改善し、自律神経の機能を整えることができると学びました。参加者からは「少し体操をただで効果を感じられて良かった。家でもやってみようと思います。」という声もあり、日々の生活に取り入れやすい実践的な内容で、とても有意義な講座となりました。



ハーモニーひたちなかバス視察研修を行いました！

ハーモニーひたちなかのバス研修は、つくば市の防災科学技術研究所（防災科研）及び実験植物園でした。今年度のテーマである、防災を意識しての企画です。

日本人なら誰もが関心がある自然災害。自然現象に逆らうことは不可能ですが、防災科研が目標としている「一秒でも早い予測、一分でも早い避難、一日でも早い回復」の実現はなにより求められております。今回は同所の施設・研究の一部を見学したあと、東日本大震災など震度6以上の大地震を体感できる防災ザブトンに座り、実際の揺れを体験しました。倒れてくる家具の映像を見ながら、立ってられないほどの衝撃を受けるリアル体験を通して、災害における自助の必要性を実感しました。



また、災害発生と同時に起こるライフラインの停止は7日間くらいあると想定して、自己防衛をしておくことが大事だと改めて感じました。そのため、日頃から食料品や水、薬なども入れて非常持ち出し袋を用意しておくほか、ローリングストックを続けていく必要があると再認識しました。

有意義な体験のあと同市の実験植物園を訪れました。紅葉が美しい園内をめぐりながら、同施設が目標の一つとしている「持続可能な社会のための植物の多様性と可能性を知る」ことを澄んだ空気の中で学ぶことができ、会員の皆様も笑顔で帰路についたのでした。



す。てお祈りま



戻るこ
ができる
よう祈
てお祈
す。

また昨年度に発生した能登半島地震による影響は残っており、復興がなかなか進まない状況ではありますが、被災者の方が一日でも早く日常生活に戻ること
また昨年度に発生した能登半島地震による影響は残っており、復興がなかなか進まない状況ではありますが、被災者の方が一日でも早く日常生活に戻ること
また昨年度に発生した能登半島地震による影響は残っており、復興がなかなか進まない状況ではありますが、被災者の方が一日でも早く日常生活に戻ること

今年度は「防災」をテーマとして消費生活「ハーモニー」展において防災に関するアンケートの実施や災害の時に活躍する防災グッズを展示し啓発を行いました。

編集者の
つぶやき

「かがやく」の
バックナンバー
はこちら

